

みくびだより

平成10年6月20日

御首神社社務所

御挨拶

謹啓 御首の杜も深緑に囲まれ新しい息吹きが感じられる季節となりましたが、皆様方には愈々御清栄の御事とお慶び申し上げます。

昨年同様本年も暖冬の影響で春の訪れが早く、四月二日の例祭には多数の氏子及び崇敬者の御参列を賜り桜花舞い散る中にも厳粛に祭典が斎行出来ましたことを衷心より御礼申し上げます。

去る二月、天皇・皇后両陛下におかせられましては長野オリンピック冬季競技大会開会式に御臨席になられ名誉総裁として開会を宣言せられました。善光寺の鐘の音で開幕、次いで諏訪大社の「建御柱行事」を披露。連日熱戦が繰り広げられた結果、我が国の善戦には目をみはるものがありました。

又、後日開催のパラリンピックでは日本選手の活躍が目立ち、障害を忘れさせるような敢闘ぶりには国民全てが感激を覚えられたことでしょう。

一方、我が国の政治・経済・社会は非常な混迷を極めており真に憂えるべき社会情勢であります。

前述の「建御柱行事」の背景には先祖からの伝統を忠実に継承する姿が見受けられます。現代日本の又、日本人の状況はこの姿を壊した時点から狂い始めてきたといえるでしょう。

草や木に気候風土があるように、人の生活にもふさわしい風土習慣がある筈です。今こそ永年に渡って培われて来た日本の伝統を見つめ直し、確実に後世に継承してゆく努力をせねばならない時ではないでしょうか。

最後になりましたが皆様のご健勝と御多幸を祈念いたしまして御挨拶とさせていただきます。

「人生と四季」

山紫水明に恵まれた我が国は「敷島の国」と昔から云われていますが「四季島」の文字を当ててみては如何でしょうか。春夏秋冬の区別がはっきりと現われ、時節折々の神の心を最も美しく映し出すのが日本であります。

さて一年に四季の別があるように一日も夜朝昼夕と言う四つの言葉で別けられています。夜朝昼夕にもそれぞれ自然の言葉と味がありません。

この意味において一日は一年の縮図であり、人生の縮図でもあるのです。

Ⅱ夜 の 道Ⅱ

夜とは草木を始め動植物が冬眠に入る時期であり、春になる前まで一日で云えば朝を生み出す世界なのです。そして人間にとっては全く無意識の世界、つまり「神に寄る」世界であって体を全面的に神に預けて眠りにつき、朝に備える世界であります。夜は又人間が生きたまま死の世界を体験出来ることも神から与えられた真理なのです。

古代人は「おや」と云うことばに「意夜」と云う字を当てています。

意夜とは夜を思うことなのです。

蚊のあとを数えながらも添い寝する

母のまことのあたたかきかも

坊やが死んだように眠っている。しかし添い寝の母親は決して眠ってはいない。母親は無意識のうちにも坊やを守ろうとして眠っている。誠に親なればこそその姿であり神々しい姿であります。人は毎日眠っている又、人は毎日死んでいるそして再び朝生まれるのです。



Ⅱ朝 の 道Ⅱ

朝とは動植物が長い冬眠から目覚め、春の息吹きを始める時期だと云えましょう。人間では夜の無意識の眠りの靈の世界から現世に生まれ替わることを意味しており、これが朝なのです。朝は一日の始まりであります。日本人は昔から朝ふとんから起き上がったと云わず、床から起き上ると云います。古事記の「あめつちの始め」のくだりに五柱の神の最後に「天之常立神」が出現されたとあり、人生で云えばこの世に生まれ出たことでもあります。

朝と云う字は十日十月と書いている。人間は十月と十日で母親の胎内から生まれ出てくる。朝はまさに生まれ替わりの時であります。

Ⅱ昼 の 道Ⅱ

人生は青春期から壮年期にかけては最も華やかな時代です。人間の力はこの時代に於いて最大限に発揮される訳で、一年で言えば心身共に自由奔放に活動出来る夏に相当するもので、一日の道に於いては朝から昼にかかる道が人生の活動と符合する訳であります。昼の道とは夜に繋がる道です。夜になる道は親になる道で「意夜」の世界であり神に任せざる世界なのです。

世の中で独身は自分の事だけしか考えないので呑気であります。夫婦になれば苦労も増え、子供ができると尚更ですが可愛い故に我が子昼から夜になる道とは子供の世界から親の世界に成長する道なのです。

Ⅱ夕 の 道Ⅱ

春に咲いた花が秋にはたわな実を結び来るべき長い冬を迎える準備の期間で、一日で言えば夕方であり人生で言えば老境にさしかかった時





老境に入った人が過去を見つめて「あんなことをするのはなかつた」と大いに反省させられることもあるでしょう。出来るならば道を戻ってやり直しもしたいと考えることもあるでしょう。一日の時間を無駄に過ごせば一年が無駄になり、やがては生涯も無駄に過ぎて行くことでしょう。もし無駄に気が付き正しい道の通り直しをしようにも時間だけは待つてはくれません。まさに時は金なり、いや時は神なりなのです。

Ⅱ 神に寄る道Ⅱ

目的意識の無い人が今日一日全く邪道を歩んだと気付かずに終わった道には決して神は味方しないでしょう。では人間として過つた道が許される術は他にあるでしょうか。それは神のまことであります。

神は人間に逃れるべき道を与えています。それは一日に於ける眠りの世界であり、人間の一生に於いては死の世界であり神に委ねる世界なのであります。終日人の道を踏み外した者も、世の為人の為に捧げつくした人々も、新しい明日と云う無垢の世界に生まれ変わるのであります。しかし人間は昨日からの「過去帳」を運命として持つてくる訳であります。「徳」という過去帳を持参するか「罪」と云う過去帳をもって来るかは毎日の各自が通つた道にかかっているのです。

私達は少しでも多くの「徳」の過去帳を持参出来るよう努力し、次世代の人々に余徳として引き継ぎをしたいものです。

禰宜 上松 雅之

ちよつと一言

こんにちは、社務所より一言御案内申し上げます。

受付等で、当社で御渡しししております、撤饌（おさがり）等をどうしたらよいかと皆様からよくお尋ねがありますのでお答えいたします。

撤饌は最初に御神前に御供へして、大神様に召し上がつて戴いた御神物であります。自宅の神棚に御供へされる方もおられる様ですが、大神様の御神徳を戴くつもりで神棚にお供へした後は、御自分で或いは御家族で召し上がつて頂くことをお勧め致します。

また撤饌の包みや当神社から送付しました手紙等を大切に保存して頂き、返納される方もおられますが御家庭で処分してもらつても差し支えありません。しかし、神社名が記入してありますので、処分されるのが恐れ多いと思われましたら返納して頂いて結構です。さて、御神符・御守り等は授与されました神社・仏閣に返納していただくのが本来の姿であります。当神社の場合、仏教系のお守り・祈禱符等の返納はお断り致しておりますので悪しからずご了承下さいませ。

御家庭にどのように扱えばよいのか、わからない物がありましたら神社に御参拝された折、社務所に尋ねて頂ければ幸いです。



権禰宜 谷口 哲也

お邪魔しまゝす

* この度は長年に渡って当神社の掲示板に明治天皇御製を書いて頂いている荒尾町にお住まいの柳瀬茂樹さん宅を訪問いたしました

上松 何時もお世話になっております。長い間御製をお書きになっていきますと色々苦勞があるのではないのでしょうか？

柳瀬 いえいえ、趣味程度のことでお恥しいですがまあ楽しんでやっています。

上松 とんでもありませんご立派な書でいつも感心して詠ませてもらっています。ところで毎月一首の短歌を書いて頂く訳ですが、どなたか先生に習っておられますか？

柳瀬 実は近くの書道の先生のお手本に従って書かせてもらっています。

上松 それでは完成される迄何枚ぐらい練習されますか？

柳瀬 そうですね、三十枚から五十枚ですねえ理想としては百枚ぐらいでしょう。そうすると納得のいく作品が出来ます。

上松 「ええつ」それはすごい枚数ですねこれは努力以外の何ものでもないです。そこで書に臨まれる時の心がまえはいかがなものでしょうか？

柳瀬 明治天皇の御製は大変解り易い歌です。お手本を書いてもらう時点で本来の歌より易しく誰にでも読めるように、そして誠心誠意書かせてもらっています。

上松 成る程、その誠実さが作品に表われていると思います。そこで書道は何時頃から始められましたか？

柳瀬 平成三年に近くの地区センターで、毎月行われる書道教室に通い始めたのがきっかけなんです。

上松 そうですか、七年間実に根気よく通っておられますねえ。

柳瀬 ええ、季節によつては多忙を極める時がありますが、御製の依頼を引き受けた限りには責任がありますので途中で止める訳にはまいりません（笑い）そして目標があると自分の励みにもなるものですよ。

上松 春と秋の農繁期などは非常にご迷惑をおかけするとは思いますが？

柳瀬 農繁期には家内や家族の者にも余分な負担をかける結果とはなりますが、極力そう云うことは避けるようにしております。

上松 色々なかたちでお仕事にシワ寄せがいくことでしょうか、特に奥さまには御苦勞をお掛けして申し訳ありません。

柳瀬 私共は一家挙げて「みくびさん」を信奉いたしておりますので、神社のご用なら最優先をさせてもらっています。



上松 そうですか。誰でも口では簡単に言えますけど、実行となるとなかなか出来にくいものですが、ご一家揃ってご協力いただきまして本当に有難うございます。

柳瀬 まあ毎日健康で暮らせるのも「みくびさん」のお陰だと思ひまして、微力ですが奉仕をさせてもらっています。

上松 毎月決められた題材に万難を排してご協力下さっているこの御苦勞を、詠まれる皆さんが汲みとって頂ければ幸せですね。

柳瀬 これからも体力の続く限り協力させて頂くつもりです。

上松 今後とも末永くご協力頂きますようお願いいたします。本日はお忙しい処有難うございました。 禰宜 上松 雅之

崇敬会入会の御案内

御首神社崇敬会は、昭和六十二年の御遷座を契機に結成されてより、全国各地の崇敬者の皆様の無病息災・家内安全・生業繁盛並びに子孫の繁栄を、御首の大神様に祈願致してまいりました。

御首神社の御神徳に感謝し当社を崇敬される方は、どなたでも入会出来ます。御参拝の折、社務所にてお申し出下さい。

また、郵便にても受付出来ますので申込用紙を御請求頂ければ、お送りさせて頂きます。尚、詳しい案内書は社務所に御座いますのでお気軽にお越し下さい。

祭事案内

- ▼西宮神社例祭 七月十七日午後三時
- ▼末広稻荷神社例祭八月 二日午後三時
- ▼夏越大祓（茅の輪くぐり）
八月 二日午後三時半

夏越大祓は、日常生活に於いて知らず知らず受け犯している、半年間の罪や穢れを祓い清めて、災厄を逃れ幸福を得むとするものであります。

※人形（ひとがた） について一言

自分自身の身代わりとして人形に罪穢を託し（人形で身体を撫でる）息を三度吹きかけて住所、氏名、年齢、性別をお書きの上受付迄お申し出下さい



当社社では皆様方の罪穢を託された人形を大祓神事により、忌み火にてお焚き上げ致しますので、多数ご参列頂きまして身も心も清々しい気持ちで、除穢招福・健康長寿の御神徳を戴かれ、暑い夏を無事に過ごして頂きますよう心よりお祈り致します。

人形は、拝殿前・社務所等に用意してありますが各自奉製された人形でも受付致しますので、住所・氏名・

年齢等、詳細を明記の上、郵送又は社務所迄ご持参下さいませようお願い致します。

尚、当日は混雑致しますが平常通り午前九時より午後五時頃迄、病氣平癒を始め健康祈願・交通安全等諸祈願の御祈禱を随時行なっておりますので、社務所までお越し下さい。

- ▼長寿祈願祭 九月十五日 午後三時
- ▼神明神社例祭 十月十七日 午後三時
- ▼七五三祭 十一月一日 三十日

七五三のお祭りは、日本古来よりの人生儀礼の一つであり、子供の成長過程に節目をつけ御神前に無事成長をご報告し又、大神様の御守護を戴きお祝いをするお祭です。大切なお子様の記念すべき七五三のお参りを、当社社では職員一同心よりお待ち致しております。

又、十五日（日曜日）に御祈禱を受けられる方には、記念撮影券とコリントゲーム券をお渡しいたしますので、楽しい一時をお過ごし下さいませ。

但し雨天の場合は中止させて頂きます。

- ▼崇敬会大祭 十一月三日 午後二時

大神様の御守護を戴き、ご家族の無病息災・家内安全並びに子孫の繁栄をご祈願申し上げる崇敬会合員の年に一度の大祭です。

尚、当日入会されても大祭に参列出来ませんので、ご近所の方・ご友人等お誘い合わせの上多数ご参拝頂きますようお願い申し上げます。

- ▼新嘗祭

十一月二十三日 一
午後三時



当社では、この社報をより一層崇敬者の方々に有意義であるよう努力致したく存じますので御意見・御希望・寄稿などがありましたら、社務所まで御連絡ください。

権禰宜 高田 豊彦

御首神社社務所

岐阜県大垣市荒尾町二二八三の一
TEL(〇五八四)九一―三七〇〇